

大正大学
[鴨台]

Ohdai

特集

2013年に飛躍する
大正大学パーソン

2014年度 就活スタート

はばたけ社会へ!
就職活動出発式

2013
Winter

Vol. 93



今回の表紙は雅楽倶楽部の面々。表紙左上で舞うのは糸洲空美さん。右上は神保結花さん、右下が代表の今絵梨子さん、左下は飯島正起さん(上写真も同順)。

2013 Winter Vol.93

04 特集

2013年に飛躍する 大正大学パーソン

- 11 今年注目の新施設
「新五号館8階レストラン」と
「すがも鴨台観音堂」最新情報

- 12 2014年度 就活スタート
はばたけ社会へ! 就職活動出発式

- 23 平成24年度 成道会
新たな試みにも大きな拍手が

- 03 大正大学資産 第十回
『源氏物語』 室町時代写本 全五四帖

- 14 立川志らくの「らく塾」夜話
第八回 創作とオマージュ

- 16 良正庵 ほほえみ相談室 第九回 小林 良正

- 18 「大正大学」情報 T-Duck News

- 20 Book わたしを変えた本 神達 知純

- 21 Movie わたしを変えた映画 山内 洋

- 22 第25回 仏教歳時記
仏正月 ほとけしょうがつ
書: 赤平泰処 文: 勝崎裕彦

- 24 三号館がグッドデザイン賞を受賞

▼年の始めは誰しも、新たな決意をするもの。特に若い学生ならば、今年の目標を設定したりして、飛躍を目指すものでしょう。
▼そんな飛躍する方たちを今回、特集してみました。3年生は就職活動も解禁になり、社会にはばたくための活動が始まりました。
▼大正大学においても、今年は新五号館、宗教施設が完成し、新たな展開を遂げていることもあり、さらなる飛躍の年としたいものです。(S)

大正大学広報誌「鴨台」
2013年 冬号 vol.93
平成25年1月22日

発行: 大正大学
発行人: 多田孝文

デザイン: 岡本デザイン室
表紙イラスト: 北村範史
撮影: 北谷幸一
編集協力: 丸山貴未子、武藤誠



極めて保存状態の良い全五四帖。黒漆塗りの専用筆箱に納められ、抽斗には巻名が金文字で記されている

大学に残る隠れた名品・知的資産

大正大学 資産

第十回
『源氏物語』
室町時代写本
全五四帖

物語文学の最高峰と評される『源氏物語』。千年以上もの昔、平安時代に紫式部が紡いだこの世界最古の長編小説は、歌人や小説家が繰り返して口語訳を試みるほど、時代を超えて豊穡さを失わない文化遺産です。『源氏物語』には紫式部直筆の原典は存在せず、脈々と書き写された後世の写本のみが、その世界を今に伝えています。

現存する最古の写本は、かの歌人・藤原定家が整定したもの。定家は筆写する際に恣意的に手を加えていないと伝えられ、その意味では紫式部直筆の原典の姿を窺うことのできる貴重な史料です。

ただ、残念ながら現存する定家の自筆本は四帖のみであり、全貌は定かで

はありません。そこで定家の写本を、更に書写した「青表紙本」の系統が、文献学的には重視されています。

「青表紙本」では室町後期の「大島本」と「三条西家本」が善本として評価も定まっていますが、本学所蔵の写本も奥書等から判断すると、これらと同時期に筆写されたものとみられます。しかも全巻揃いの極めて貴重な史料です。

この写本は飛騨地方の地主で、素封家でもあった旧家に代々伝わったもので、本学に所蔵されるまでは、ほぼ門外不出の幻の史料でした。所蔵を機に、本学では広く、国内外の『源氏物語』研究に寄与するために、ホームページ上で全文の画像を一般公開しています。



『源氏物語』写本は大正大学図書館のサイト (http://www.tais.ac.jp/related/tais_library/) の「貴重書画像公開」から全ページ閲覧できる

カバディ
女子日本代表・
ワールドカップ3位
越前谷 美穂さん



ロンドン
パラリンピック
2012
柔道競技コーチ
織原 悠樹さん



東北再生支援
ボランティア
鴨台スタッフ
中塚 詩織さん



「関東学生
卓球リーグ戦」特別賞
笠原 多加恵さん



野球部ピッチャー
東風平 光一さん



空手家・本学OG
高橋 優子さん



特集

2013年に飛躍する 大正大学パーソン

新年を迎え多くの人たちが明日に向かってはばたき始めています
本特集では新たな年2013年への期待と希望を込めて
さらなる活躍が期待される大正大学生、卒業生をご紹介します



越前谷 美穂さん

歴史学科 2年

昨年、カバディ女子・
日本代表として
ワールドカップ3位
来年のアジア大会で
さらなる飛躍を目指す

MIHO ECHIZENYA

「な

でしこ」の活躍が話題をさ
らった2012年。その一
方で3月に初開催された
カバディ女子ワールドカップ（W杯）で
の日本代表の活躍をご存じですか。

カバディはインドに端を発する競技。7
人チームで対峙して、敵陣に飛び込み相手
にタッチし、逃げ戻れたら得点です。

アジアでの競技人口を増やしているカバ
ディ、ついに女子W杯が開催され、日本
代表はなんと3位。その一員として全試合
に出場したのが越前谷美穂さん。彼女が手
にしているのは、W杯3位の銅メダル。

彼女が日本代表になったのは、2011年
の11月、なんとW杯の4カ月前でした。

「大学で初めてカバディを始めました。カ
バディ部の女子は当時3人。それで大学と
は別に社会人や他大学の方と集まつの練



彼女が手にしているのはカバディ女子W杯3
位トロフィー。会場となったのはインド東部
にある都市パटना。「予想以上に快適な街。食
べ物がどれも美味しいけれど、日に日に日本
食が恋しくなります(笑)」と越前谷さん

習もしています。そうこうしているうちに、
韓国での親善試合に参加して、その後突然、
日本カバディ協会の方から連絡をいただき、
日本代表になりました。そのときの気持ち
は『やってやるぞ！』ですね(笑)』

現時点でのカバディ女子はインドが飛び
抜けた存在。準優勝したイランも強豪で、
同位で3位のタイも手強い相手です。

「3位が決まったとき、チームのメンバ
ーも『やった！』という気持ちはありまし
たが、『まだまだ、これから』という気持
ちの方が強かったです。来年2014年のア
ジア大会でさらに上に行きたいというのが、
いまチーム一丸の目標になっています」

昨年、7月の韓国親善試合ではアジア4
カ国と戦い全勝。各国でのカバディ人
気の高まりで日本代表も油断できません。さら
に上を目指す日本代表を応援しましょう。

ロンドンパラリンピック
2012に柔道競技
コーチとして参加
将来も障害者
スポーツに関わりたい

織原 悠樹さん
アーバン福祉学科 4年



YUKI ORIHARA

2

012年のスポーツ界の目玉は
ロンドンオリンピック。続いて
開催されたパラリンピックでの

日本選手の活躍も忘れられません。柔道部
主将の織原悠樹さんは、パラリンピック柔
道競技のコーチとして参加しました。

「僕はまだ学生なので、コーチという気持
ちは全くなく……。どちらかというと学生
サポーターとして、技やメンタル調整の手
助けをしていました」

織原さんと障害者柔道との出会いは2年
前、大正大学柔道部と障害者柔道選手との
合同稽古から始まった。障害者柔道は最初
に組んだ状態から始まる以外、健常者の柔
道とはほとんど変わらない。

「練習のときから『遠慮しないでくれ』と
言われました。彼らも日本代表選手だった
ので、手加減せずに練習していました」

プレイヤー同士の付き合いから、その後、
織原さんも含め柔道部の3名がパラリンピ
ック柔道競技の選手団に加わり、選手らの
活躍を助けたとのこと。

「パラリンピックでの一番の印象は、選手
に感謝をされたこと。合同稽古のときから
長い間携わってきてよかったです。この経
験を感動だけで終わらせたくない」

と、織原さんは熱く語る。

「オリンピックとパラリンピック、名前は
分かれていますがスポーツとしての違いは
ありません。障害者の方がスポーツをやっ
ていることへの感動ではなく、パラリンピ
ックの舞台に立つまでの努力が感動を呼ぶ
それはすべてのスポーツで同じです」

織原さんは卒業後も障害者柔道に携わり
たいと考えている。障害者の方を互いに支え
合っていきたいと。



(上)パラリンピックの開会式
の様。パラリンピックもオリ
ンピックと同じ会場を使用
し、開会式も同様に、盛大
に行われた。織原さんはス
タンドから観戦した。(下)選
手村のパラリンピックマーク
のモニュメントの前で



大

学1年のときには関東学生リーグ戦で最優秀新人賞、優秀選手賞を受賞し、本学の女子卓球のエースとして活躍してきた笠原多加恵さんも3月に卒業します。その活躍は関東学生卓球リーグ戦での4年間通算31勝という成績にも表れ、昨年12月には関東学生卓球連盟特別賞を授与されました。

「昨年は、個人としては全日本大学総合卓球選手権大会で3位に入るなど、よい結果が出せたと思います。しかし、卓球部キャプテンとしてはまだまだでした」

昨年の卓球部女子は秋のリーグ戦で二部へ。笠原さんは、あと一歩のところまで勝ちきれなかったことを悔しがります。

「実力的には、1部復帰は難しくないと思っています。今年の春のリーグ戦で1部に復帰して、秋のリーグ戦でどこまで上位に



手にするのは昨年の10月に行われた「第79回 全日本大学総合卓球選手権大会」女子シングル3位のメダル

いけるか、新4年生に期待しています」

春からは新天地での活躍となる笠原さんに、その進路について聞いてみると、

「就職活動は、やはりたいへんでした。なんとか卓球部のある会社に就職が決まり、自分の希望の方向に行けたので、本当に良かったと思います。4月からは仕事と卓球の両立を目標に、さらに卓球で上位を目指していけるようにしたいと思っています」

しかし、その前にあるのが新年早々1月15日からの「天皇杯・皇后杯 平成24年度全日本卓球選手権大会」。昨年の女子優勝者は福原愛さん。

「いま一番の目標は全日本卓球選手権大会。福原愛さんと戦えるようなら、テレビに映るかもしれませんね（笑）」

社会人になっても、卓球で活躍する笠原さん。テレビでの登場も楽しみです。

TAKAE KASAHARA

これまでの活躍が
「関東学生卓球リーグ戦」
特別賞に今年は
社会人として白球を
打ち込む

笠原 多加恵さん
仏教学科 4年



SHIORI NAKATSUKA

鴨台スタッフとして
東北再生を支援
ボランティアを通じて
人に夢を与えたい

中塚 詩織さん

人間科学科 2年



昨年9月の南三陸町での活動
では、枝豆の収穫作業を手伝
ったり、「オクトパス君」のぬい
ぐるみに入るなど大活躍



東

日本大震災以降、「何かしたいけど、なかなか一歩踏み出す勇気がない」という方も多いと思います。入学時からそんな想いを抱えて過ごしていた中塚詩織さんが、新たな一歩を踏み出すきっかけとなったのが「鴨台プロジェクトセンター」。昨年春スタートした鴨台プロジェクトセンターの活動に東北復興再生支援があります。中塚さんは、「元々気軽なボランティア、例えばゴミ拾いなどに興味がありました。それと大震災後、被災地がずっと気になっていましたが、何をしたらいいか分からなかった。鴨台プロジェクトセンターが鴨台スタッフとして学生を募集していることを知り、すぐに参加しました。被災地支援も地域交流もできるというのが魅力でした」

現在の鴨台スタッフは54名。そのうちの

20名が、昨年9月に宮城県南三陸町へ足を運び被災地支援のボランティア活動を行いました。今年に入り、3月には南三陸町に建設中だった研修施設が竣工し、さらなる鴨台スタッフの活動が期待されています。「被災地に行って、やっぱりボランティアっていいなと思いました。どんな人でも、ボランティアをしたいって気持ちはあると思うんです。勇気をもって一歩踏み出せばいろんな景色が見えてきます。鴨台プロジェクトセンターをきっかけにして、気軽にボランティアをしてほしいです！」

中塚さんの将来の目標は、人に夢を与えて喜ばせること。そのためにはまずは、ボランティアを通じて、継続して被災地の支援をしながら自分の人間性を高めていくのが目標です。これからも続く東北支援活動はひとつの自己実現の形かもしれません。

取材・文／吉田美幸(クリエイティブライティングコース)



写真提供：
群馬ダイヤモンドペガサス

昨年12月9日に高崎で行われた群馬ダイヤモンドペガサスでの入団挨拶。東風平さんは前列一番右。2月にはキャンプ入りして、4月のリーグ開幕戦を目指す

プ

ロ野球独立リーグ「ベースボール・チャレンジ・リーグ（BCリーグ）」に進むことを決断した野球部の東風平光一さん。埼玉校舎の野球部グラウンドで自主トレをする彼にプロ野球への思いを聞きました。

「野球を始めたのは小学1年生。父親とのキャッチボールがきっかけで次の日には少年野球チームに入団。それからずっと野球を続けています」

高校までは、内野、外野、キャッチャーもこなすオールラウンドプレーヤー。大学進学時、他大学も考えたが、大正大学を選んだのはピッチャーができるとの理由から。「それまでいろいろなポジションを経験しましたが、ピッチャーは試合を作っていく主役です。自分としてはそこにこだわっています。投球スタイルは得意な球種で勝負

するタイプではなく、幅広い球種を高いレベルで駆使して、試合を作っていくピッチャーになりたいと思っています」

大学時代の忘れられない試合を聞くと、「昨年の秋リーグ最終戦です。実はその前に怪我をしていて不安もあったのですがマウンドに立ちました。9回裏同点になるなど苦しい試合でしたが、自分でも会心の投球ができたと思いました。それで、まだまだ野球をやりたい、まだまだ上を目指したいと考え、監督や先輩とも相談してBCリーグの群馬ダイヤモンドペガサスのトライアウトに参加して、合格したんです」

新たなチームでさらなる飛躍を目指す東風平さんは、後輩へのメッセージとして、「目標設定は高く。目標を高くすることでさらなる高みに望めます」と力強く語ってくれました。

野球でさらなる高みへ
トライアウトに挑戦し
BCリーグの
マウンドに立つ

こちんだ
東風平 光一さん
人間科学科 4年

KOICHI KOCHINDA



T-Duck News

「大正大学」情報



DONATION 寄贈

日本最古の医学全集
「医心方」の全訳精解が
成田山新勝寺より贈られる



完結までに20年を要した全訳精解。真髄である「医学概論篇」に始まるこの大著には、古の民俗風習の謎を解き明かし、源を知る手掛かりが詰まっている

『全』

訳精解大同類聚方百巻で菊池寛賞等を受賞し、古典医学研究の第一人者である横佐知子氏が、40年もの歳月をかけ精査し、初の現代語訳を付した『医心方』全30巻(33冊)が昨年完結。刊行開始以来20年越しの偉業を成し遂げた横氏は、実は本学とも縁の深い成田山新勝寺の信徒であられ、その縁もあり、成田山新勝寺より昨秋『医心方』全巻揃いが本学図書館に寄贈されました。

『医心方』は後漢の靈帝の後裔で鍼博士の丹波康頼が984年に編集した書物で、宋以前の医書・仙書・仏典・哲学・文学などの文献が網羅されている、まさに医学全書です。

逸失した原典文献も多く含まれているという事情もあり、国内外の研究者の間で名高かった書物で、「半井本」と呼ばれる原本は1984年に国宝に指定されました。そのような『医心方』に真っ向か

ら挑んだ横氏の偉業の真髄は、入念で綿密な校訂作業や、『医心方』の全体を長年にわたり精査した上での平明で流暢な現代語訳にあり、「前人未到の画期的業績」という意句も決して誇張ではありません。

そもそも『医心方』は、現代医学が対象とするすべての傷病や鍼灸のほかにも、現世利益・美容・占術・呪術など、あらゆる欲望と悩みを扱っており、現代医学が抱える諸問題を打開させる多くのヒントが含まれている、とも言われます。横佐知子氏(本人も「植物・鳥獣・虫魚・土石・鉱物に関心のある方々や、宗教・哲学・古典文学・比較文化人類学等々の研究者にとって、宝庫というべき千年のタイムカプセル」と述べているほどの書物です。

今回の寄贈は成田山新勝寺の橋本照稔貫首の「学生の研究に役立てて欲しい」という意向によるもので、本学図書館では開架(3階予定)での閲覧の準備を進めています。



昨秋、本学を来訪された成田山新勝寺の教化部長・伊藤照節師より、本学図書館の小山典勇館長に『医心方』寄贈にあたっての目録が手渡された

ARCHIVE 記録

放送映像の学生が
「豊島区の記憶」を映像化

豊

島区が区制施行80周年を記念して、昨年の春から進めているのが「記憶の遺産事業」。これは豊島区各地域で語り継がれてきた郷土史や慣習、後世に残したい出来事などを「記憶の遺産」として映像に残し、次世代に引き継ごうとする歴史事業です。

この事業の実現にあたって、本学と立教大学も全面的に協力。とくに本学は鴨台プロジェクトセンターを窓口放送・映像コース1年生の秋学期ワークショップとして取り組みました。このワークショップでは、1年生77人が25班に分かれて、豊島区の語り部たち取材。そして撮影、



(右)制作された映像作品16班の「南長崎はらっぱ公園」のヒトコマ。秋学期のワークショップで各班3〜4本の映像作品を12月までに完成させた。(上)三号館のスタジオは収録だけでなく、編集、ナレーションと、この映像制作で大いに活用され、学生にとっても実践の場となった



編集を経て3〜5分のドキュメンタリー作品にまとめました。12月中旬には75本の作品が仕上がリ、ワークショップ内ではすべての作品の上映と講評が終わったとのこと。放送・映像コースの小櫻英夫先生は、「学生にとっても、いい勉強になりました。区内での公開も始まるので、観ていただいた人からの反応が届くのが楽しみです」

制作された映像は、2月の社会貢献活動見本市や3月に予定される豊島区の「記憶の遺産80」発表会で上映されます。こうした機会に、放送・映像学生の作品を、ぜひご覧になってみてください。

ECO LIFE エコライフ

「エコプロダクツ展2012」に
環コミが4回目の出展



初出展時は大正大学と環境との関係を知らない人も多かったとか。いまではリピーターとして訪れる人も

環

境コミュニティコース(環コミ)が日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2012」(12月13〜15日)に出展するのは今年で4回目。2回目からは2年生のワークショップとフィールドワークの一貫として参加しています。展示内容は、山形県長井市の循環型まちづくり、埼玉県本庄市小平での地域活性化活動、豊島区での省エネ診断事業、ネイチャーゲーム、ピオトップ作りなど、環コミでの学びの成果を展示し、来場者に学生が直接説明しています。環コミの高橋正弘先生は、

「環コミでの学びは教室内にとどまらず、外に出ていくところに特長があります。その意味でも、このエコプロダクツ展への出展は大きな学びになっていきます」

毎年、大学や教育機関の出展も増えており、今年は50以上の出展がありました。その中で環コミの展示も存在感を増しています。

PRIZE 受賞

本年度の
アカデミックコンテスト
入賞者決定



優秀賞「赤頭」堤谷朱里(仏教学科三年)

12

月12日、平成24年度のアカデミックコンテスト入賞者が発表されました。今年も残念ながら大賞受賞者はありませんでしたが、応募作品数61点の中から優秀賞6点、奨励賞14点

が選ばれました。ダブル受賞者も何人かいて、多ジャンルで活躍する学生の登場も頼もしい限りです。

小説部門/純文学で優秀賞・松井亜人夢さん、奨励賞・押木いづみさん、久保美智さん。小説部門/エンターテインメントで奨励賞・真下みどりさん、鈴木翔太さん、惣佐優美子さん。エッセイ・評論部門で奨励賞・松井亜人夢さん。詩歌部門で優秀賞・渡邊やよいさん、奨励賞・山田将也さん。絵画・イラスト部門で優秀賞・三上詩央里さん、堤谷朱里さん、森奏菜子さん、奨励賞・川上恵さん、今泉春香さん、小島美幸さん、伊原千紘さん。写真部門で奨励賞・真下みどりさん。映像部門で優秀賞・榊原駿さん、奨励賞・山田将也さん、川上真奈さん。

受賞者の作品は、3月に刊行される作品集「銀杏」に掲載されます。

高橋 優子さん

本学OG / 空手家 /
2002年 仏教学科卒

「空優会 空手道場」を主宰
東京・赤坂に本部道場を構え
著書の出版やTV-CMに
役者として出演するなど
様々なメディアでも活躍中

YUKO TAKAHASHI



2012年10月完成の、真新しい「空優会」赤坂本部道場にて。著書の『カラテ体操ダイエット』(朝日新聞出版)では、空手とダイエットを融合した自身のメソッドを紹介。好評を博している



空手家としては『DVDで学ぶ空手道めざせ黒帯! 昇級審査対策の完璧マニュアル』(山と溪谷社)も1月下旬に刊行予定。高橋さん・空優会の詳しい活動情報等はサイト(www.kuuyuukai.com)まで

「外」

面ではなく、内面の強さを追求する空手の考えに惹かれた」と、空手を始めた動機を語る高橋優子さん。元々は中学から始めたバレーボールを地元群馬の強豪校でも続けていたが、高校3年の時に、当時本学職員で空手部OBでもあった叔父の勧めで空手に出会ったという。強豪校ゆえバレーボール漬けだった彼女には、空手の練習は、厳しくはあれ「愉しかった」。

もともと、僧侶の一族で教育関係者も多い家庭に育った高橋さんが、本学・仏教学科に進んだのはストレートに「仏教を学びたかったから」。仏教に冒頭の「内面の強さ」に通じるものを感じていたことも理由の一端だという。教職課程も履修し、本人いわく「極めて真面目」な学生時代を過ごしたが、伝統ある本学の空手部でも研鑽を積み、在学中の2000年に国民体育大会で準優勝。02年には全日本ナショナルチー

ムに選抜されるなど在校時から大活躍した。卒業後は空手選手の道を選び、日本空手協会の総本部指導員になる。数々の国内外の大会で輝かしい結果を残し、現在は10年に設立した自身の空手道場「空優会」を舞台に自身の修練と、幼児から年配までの、多くの生徒の指導にあたっている。

指導にあたっては、本学で学んだ「徳の心」などの教えについても、染み入るよう考えさせられるそうで、故・山ノ井大治先生に教わった産育と葬送儀礼の類似性について、生徒と語り合ったりするという。

「外柔内剛」を地で行くように、普段は冗談や笑顔が絶えないが、道着に着替えると芯の強さがにじみ出る。空手をラジオ体操のような日常的なものにするのが夢だと語る高橋さんに、今の学生にひとこと、と聞くと「覇気を出せ!」。豪快に笑いながらエールを贈ってくれた。

新五号館 8階 レストラン



大正大学の立地は昔から「鴨台」と呼ばれる高台。その地に建つ8階からの眺めはスカイレストランとでもいうべきもの。地域の交流の場としての利用も予定している

すがも 鴨台観音堂



(上)は「すがも鴨台観音堂」の完成予想図。塔周辺は大学構内と仕切られ、庚申塚通りに面したオープンな広場となる。(右)3階には観世音菩薩像が奉られ、囲まれた滝の壁画の中で浮いているように見え、エネルギーを授かる場をイメージする



今年注目の新施設

「新五号館8階レストラン」と 「すがも鴨台観音堂」最新情報

大 正大学を巡る今年の大きな話題は4月完成の新五号館と5月の「すがも鴨台観音堂」でしょう。

新五号館は大・中教室や臨床心理学科の施設が入るだけでなく1階と8階がコミュニケーションスペースになるなど、本学の魅力をさらにアップしてくれるはずですが、中でも8階に設けられるレストラン「鴨台食堂」は眺望も楽しめる本格派。運営にプリンスホテルがあたるなど、どんなメニューがラインナップに並ぶのかが楽しみです。これまでの検討によると、後述する「すがも鴨台観音堂」を訪れる方々も利用できる、学食とは違った一段上を目指すとか。ちょっと値段も張りそうですが、学生プライスのメニューも検討中ということで、いまからオープンが楽しみです。

さて、もうひとつの話題「すがも鴨台観音堂」はこれまで「新宗教施設」「さざえ堂」として仮称されていたものです。構造は三重塔になっており、内部は入口から3階に上がって出口までひと続きになっているという不思議な建物。ここを歩くことがひとつの巡礼となり、そうした御利益もあることから、多くの来場者が予想されています。塔の1階では制多迦童子^{せいたかどうじ}がお出迎えます。そして頂上3階に奉られるのが観世音菩薩像。その観音像を囲むように日本画の大家、千住博先生の壁画「滝」が飾られています。建物の作りだけでなく、内部の趣向も期待の施設になっています。



就活に臨む三年生の前途を祝して、職員代表から盛大なるエールが送られた。今年の就職を決めた4年生の就職サポーターも壇上に上がって激励のメッセージを送った

2014年度 就活スタート はばたけ社会へ! 就職活動出発式

先の12月1日をもってスタートした
2014年度の就職活動
それに先立つ11月29日には
三年生全員参加での
就職活動出発式が行われた
厳しい就職戦線が伝えられる中
緊迫した雰囲気の中にも
明日への期待が感じられる式となった

就職活動のスタートは、いまや三年生の12月。なかなか回復しない経済環境の中、本学においても就職問題は喫緊の課題です。各学部ごとに、三年生の就職活動開始にあたっての決起集会などが開催されていますが、それを総括するかたちで開催されたのが大学主催の「就職活動出発式」です。

当日、会場に集まった528名の三年生はほとんどがスーツ姿。普段とは見違える姿に就職への意識の高さを感じました。

式開始の口火を切った多田孝文学長は、「本学で君達が磨いてきたすばらし属性を社会に問うときがやってきました。いまの就職状況には非常に厳しいものがありますが、自分のもっているものを素直に出し切れれば、きっと乗り越えられる。大学でも万全の体制を整え、就職対策をさらに強力

スタジオでの 面接トレーニングも 始まる



(上)自分の面接態度が克明に録画される
(下)録画を見るとたくさんの気づきがある

大正大学生の就職活動を支援する CEC は、筆記試験対策講座、就職対策ゼミ、業界研究セミナーなど、さまざまな就職支援を行っています。が、その中でも本年度新たに加わった三号館スタジオを使っている面接トレーニングに注目です。

このトレーニングでは、スタジオ内に面接会場を再現。ここで実践しながらの面接を実施して録画し、その後、録画を見ながら、自分の発言だけでなく、身ぶり手ぶりにいたるまで、しっかりと振り返りができるのが特長です。

参加した学生の話によると、「模擬とはいえ、面接後に自分が何をしゃべって、どうしていたのかまったく思い出せませんでした。この録画を見て初めて、アレ、自分はこんなことをしていたのか、と気付かれます」

今後の実施スケジュールや申込みに関しては二号館1階の CEC にお問い合わせください。



就活出発式の最後は、教職員の拍手で三年生が退場。一段と強くなった決意と絆を胸に就職戦線での健闘に期待したい

に推し進めるため『就職総合対策機構』を作りました」

と述べ、三年生を激励するだけでなく、強力なバックアップ体制ができつつあることをアピール。これまでもキャリアエディケーションセンター（CEC）が手厚い就職バックアップをおこなってきましたが、さらに教員、職員、大学が持つあらゆる資産資源を総動員できる就職支援のための「就職総合対策機構」が発足し、活動を始めています。続いて壇上に立った次期学長の勝崎裕彦先生は、

「平成28年の90周年に、首都圏文系大学で期待、信頼、満足度ナンバー1となるべく、実績を積み上げている本学ですが、その中でも就職支援は最重要課題です。本学の経

営基盤となる人材、資産を生かして、その目標を必ず達成するべく邁進します」

と力強く宣言。教員を代表して西蔭浩子先生からは、

「みなさんはいま、どんな気持ちですか。不安でいっぱいではないでしょうか。しかし、不安になる必要はないと思います。逆に、これからの就職戦線を楽しんでもらいたいと思います」

と萎縮しがちな就活生の心理を配慮した言葉をいただきました。

そして、前方に今年の就職戦線を勝ち抜いた四年生で CEC の就職サポーターの面々が登場。代表して人間科学科の大場康介さんがスピーチ。彼は就職を成功に導くために「外に出る一歩」「最後までやり抜く一歩」「さらに自分を成長させる一歩」のこの三歩が大切と説き、それを助けてくれるのが友人や周りの人々だったと自らの経験からアドバイス。これを受けて三年生代表の土屋郁実さんが、みなさんの激励にお礼を述べました。

そして締め、就職総合対策機構の長となる木元修一先生は、「自分の長所を伸ばす」「二日一日を大切にすること」「自分の成功を確信すること」のこの三つを就職成功のために、まず実践してほしいと語りました。

最後に教職員からのエールと拍手で三年生は見送られ、新たな決意を胸に礼拝堂を退場しました。

立川志らくの

「らく塾」夜話

第八回

創作とオマージュ

SHIRAKU
TATEKAWA



イラスト：高山ゆうすけ

今日はオマージュについてお話ししようと思います。先日カミさんが

「風の谷のナウシカ」の中の「レクイエム」という曲が聴きたいというので、ユーチューブで検索しました。出てきた音楽の頭の部分を聴いて、あれと思いました。「これは違う音楽だよ。ヘンデルっていう人の作った『サラバンド』っていう曲だよ」と私が言うと、カミさんが「いや、これこれ」。「いやいや、これはヘンデル」。で、しばらく聴いていると、いつのまにか「ナウシカ」のメロディになっている。「サラバンド」は有名な曲で、いろいろな映画にも使われています

し、私自身「未来ボリスマン」という芝居を作ったときに劇中で使っています。間違えるはずがありません。ネットで調べてみましたが、とくに断りはないようで、若い子は知らずに「ナウシカ」の曲だと思っているのではないのでしょうか。

（一）んなこともありました。私はサザン・オールスターズの「愛の言葉」という歌が好きです。なぜこの曲に限って好きなんだろうとずっと気になっていたんですが、これはバーブラ・ストライザンドの歌った「ウーマン・イン・ラブ」にそっくりなんです。ああ、そうだったのかと合点がたって妙にうれし

くなっていました。長渕剛の「RUN」という歌があります。歌い出しの一節が、相田みつをの有名な詩とほとんど同じなんです。あちこちで話題になって、長渕さんのほうが、無許可であったことを相田さん側にあやまったという記事が出ていました。

作品がオマージュなのか、ぱくりなのか。これは大変むずかしい問題です。たまたま似てしまうことはもちろんあるでしょう。

私も自分の映画作品の音楽は自分で作りますが、初めての映画のときに作った一曲は、どこかで聴いたことが

あるなと思っていました。ああ、あれはザ・ピーナッツの「恋のバカンス」だったと、2年ほど前に気がつきました。盗作したつもりは全くなく、頭にあったものがうまくその場面にはまってしまった、そっくりな曲になってしまった。そういう経験があります。

オマージュとぱくりの違いは、そこにどれだけ愛があるか、どれだけそのアーティストを敬愛しているか、だと思います。その作品があまりにも好きなのでという気持ちを読み取れば、それはオマージュになる。敬愛の精神があつてその作品に影響を受けたということ

がわかれば、ファンも納得します。黙ってもってきてもかますからいけない。日本人は器用だから、やってしまいうんできれい。

チ

ヤップリンの「モダン・タイムス」という有名な作品も、ルネ・クレール監督の「自由を我等に」の盗作だと騒ぎになり、裁判沙汰になったことがあります。問題になったのはどちらの作品にも工場のベルトコンベアのシーンが出てくるからです。「自由を我等に」

では、そのシーンはミュージカル仕立てで、工員たちが歌って踊りながら、次から次へと出てくるベルトコンベアの仕事をしています。働いて働いて、人間性が失われていくことをコミカルに描いています。

一方、「モダン・タイムス」のベルトコンベアのシーンでは、一日同じ作業を繰り返しているうちに、主人公が何を見てもネジに見えてしまうようになる。女の人のスカートのボタンまでネ

Q

喜劇人と一般の俳優の違いはどこにありますか。

A

大きな違いは喜劇人には哀愁が漂っているところ。しかもその哀愁の度合いが半端じゃない。普通の俳優さんにはそれほど哀愁がなくともいいんです。でも喜劇人には哀愁がないとダメです。なぜならやっているとぐだらないから。ビートたけしさんが酔って人前でパントをおろしちゃったりするでしょう。これを哀愁のない人がやったら、哀れなさい。下品で見てもらえませんよ。哀愁漂ったけしさんがやるから、情けなくて笑えるんです。くだらないことをやっている人ほど、哀愁がないと駄目。

裁

判で、チャップリンは「盗作ではありません。『自由を我等に』を見たとき、このままでは人間性が失われてしまうということをコメディに仕立てていることに刺激を受けた。だからベルトコンベアのシーンを作ったんです」と主張しました。それを聞いて、ルネ・クレールは「チャップリンが私の作品に刺激を受け、『モダン・タイムス』という傑作が生まれたなら光栄です」と発表し、二人の間では和解が成立しました。

落

語でも同じようなことがあります。談志師匠の独自のギャグを、そのままもってきて演じる人もいます。「談志師匠を愛しているから、それはオマー・ジュなんだ」といえばオマー・ジュになるかもしれない。でも、「子別れ」の中で、子どもがもらった50銭で色鉛筆を買った

という師匠が創作したシーンを、色鉛筆をクレヨンに変えたぐらいでそのまま演じるのはどうかと思います。師匠が何年もかけてようやくたどり着いたフレーズを、簡単に持ってきてしまうのは果たしてオマー・ジュなのか。談春兄さんは師匠から許しを得たからオマー・ジュという事にはなりますが。

師

匠の志を受け継ぐというのはそういうことじゃないと思うんです。たとえば私は談志の「黄金餅」が大好きです。古今亭（志ん朝）の「黄金餅」は陽気だけれども、談志のそれは人間のエゴを描き出したドロドロした「黄金餅」です。それは私も同じ意見です。でも師匠が「餅の焼き方はどうする?」「ミディアム・レア」とやったアレンジをそのままやるうとは思わない。それはばくりだと思わります。オマー・ジュは別の形で現したい。少なくとも私はそう思っています。



立川志らく
(たてかわしらく)

落語家（落語立川流所属）・映画監督（日本映画監督協会所属）。1963年東京都生まれ。1985年立川談志に入門。1988年二つ目昇進、1995年真打ち昇進。落語家、映画監督、映画評論家、エッセイスト、昭和歌謡曲博士、劇団主宰、本学客員教授と幅広く活動。http://www.shiraku.net

良正庵 ほほえみ相談室

第九回

あまたあるお経の中で

良正尼僧が一番心惹かれるという
「仏説父母恩重經」。

親の大恩を思い返せば、

自然と生きる道がみえてくる。



自分のことはさておいても
まず子供のためにと尽くすのが親心。
親の大恩を10に分け、
そのひとつひとつをかみしめれば、
親を大切に思う心がわいてくる。

私

が尼僧になってから毎日続けていることがひとつあります。それは「仏説父母恩重經」というお経の抜粋を、毎朝書くこと。

随分前に薬師寺の管長であった故・高田好胤先生が、写経勸進（写経の供養料を集め寄付とした）による金堂の復興をめざしたことがあります。その頃、縁あって先生に直接いろいろなお経を見せていただく機会がありました。そのとき、この「仏説父母恩重經」に出会い、なぜか心惹かれました。父も母もすでに亡くなり、もう何もしてあげられなくなってしまうという思いが自分の中にあつたのかもしれない。

それから高田先生のところにあつた写経用紙を手に入れ、このお経を書き始めました。でも、忘れるんですね。朝忙しくて書けない。昼書こうと思うけれど、書けない。夜忘れて寝てしまう。という

ように、最初の頃は1週間坊主だったり、1ヵ月坊主だったりしましたが、20年ぐらい前からでしょうか。年に1、2回はどうしても書けない日がありますが、それ以外は毎日必ずこのお経を書き記しています。たった1枚書くだけの話、何分かあればできることですが、毎日となるとなかなかむずかしいものです。今は旅に出るときも写経用紙を持って行き、用紙を忘れたら旅館の便せんに書いたりもして、何とか続けています。

これ以上はない親の大恩

このお経では、親の大恩を10種に分け、その恩に報いることを促しています。

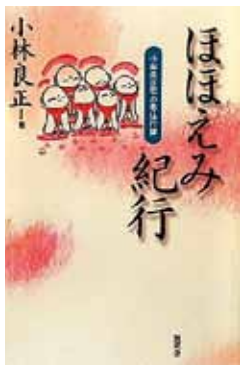
① 懐胎守護の恩

お腹の中に子供を身ごもった10ヵ月は、まるで重病にかかったようにつらい。人は命を授かっただけで、親から大き



小林良正

1950年、愛知県名古屋生まれ。大学卒業後、結婚し二児を育てる。37歳で浄土宗で得度し、1988年、仏教大学文学部仏教学科卒。1990年、嵯峨清涼寺にて水谷幸正上人の導きで剃髪。1991年、良正庵を結ぶ。「お母さん尼僧の辻説法」講演で活躍の一方、全国念仏行脚を続け、2011年4月、日本一周満行。2010年4月から大正大学キャリア教育研究所招聘研究員、大正大学講師。



良正尼の本。『小林良正尼の念仏行脚 ぼほえみ紀行』全国書店にて好評発売中です

「良正庵 ぼほえみ相談室」では、ご相談受付中です。本連載にて、取り上げさせていただきます。あなたの簡単なプロフィールと匿名にするかどうかをお書き添えの上、書面にて下記住所までお送りください。よろしく願いいたします。

〒170-8470
東京都豊島区西巢鴨3-20-1
大正大学企画調整課
「良正庵 ぼほえみ相談室」係

な恩義を受けているということです。

② 臨生受苦の恩

陣痛の苦しみはこの身が減じるかと思うほど。産んだ人にしかわからない苦しみです。そのおかげで、私たちは生まれてきたのですね。

③ 生子忘憂の恩

けれども、産声を聞けば、それだけで産みの苦しみは帳消しになる。「子供は生まれたてのときが一番かわいかった」と言う人が多いのはそのせいでしょう。

④ 乳哺養育の恩

子供が生まれてから乳離れするまで飲むお乳の量は、一石八斗、一升瓶で180本分だといいます。今はもう少し減っているかもしれませんが、それにしてもこれだけの量のお乳を体の中から出すのは大変なことです。まさに身を削る行為。

⑤ 廻乾就湿の恩

どんなに寒い夜であっても、子供がお

ねしょをしたら、自分が寝ていたふとんの乾いたところに子供をまわし、自分は代わって湿ったところで寝る。という意味です。

⑥ 洗濯不浄の恩

子供がふところや衣服に尿をしても、洗います。汚れや臭いをいとわない。子供が育ち上がるまで、子供の不浄物がどれだけ親の爪につくことか、はかりきれません。

⑦ 嚙苦吐甘の恩

親はまずいいものを食べても、子供にはおいしいものを食べさせる。宴会に招かれて山海の珍味が出たら、自分はあまり食べず持ち帰って子供に与える。子供の喜ぶ顔を見るのが親の何よりの喜びです。

⑧ 為造悪業の恩

たとえば、子供が「あの柿が欲しい」と言ったら、いけないこととわかっていても、人の家の柿を盗んで子供に与えようとします。子供に罪を犯させるくらいな

ら、自分が罪を犯すのです。

⑨ 遠行憶念の恩

子供が遠くへ行ったら、帰って来るまで、寝ても覚めても子供のことを思います。それが子を思う親心です。

⑩ 究竟憐愍の恩

究竟憐愍というのは天に極まりがないほど、つまりこれ以上ないほどの恩という意味です。親は生前はもちろん、向こうの国へ行っても、上から子供のことを見守ってくれる、ありがたい存在だということです。

もらうばかりでなく与えたい

このように大きな恩、重い恩を受けてきたのに、子供は成長して結婚すると、つい親を邪険にしたりします。このお経には「老いぼれていつまでも生きているより死んだほうがよい」とまで言う息子が出てきます。

そこまでひどくなくても、親御さんのどちらかが先立ち、一人が残されたとき、「二人でも大丈夫だよ」という親の言葉を鵜呑みにして、安易に「じゃあ帰るよ」などと言っていないませんか。本当は不安でたまらなくても「大丈夫」と言う親の気持ちを汲み取りたいものです。

あなたが親を大切にする姿勢は必ず子供に伝わります。逆に親を邪険にすれば、子供もそういうものなんだと思ってしまう。

自分のことは後回しにしても、まず子供ののためにと心を尽くしてくれた尊い親の恩。もらってばかりでなく、こちらから与えることを忘れてはならないと思います。何も構える必要はありません。

「母さんの声が聞きたかったんだ」と電話するだけでいいのです。多少心配をかけるようなことを言ってもかまわないでしょう。小さなことから恩に報いていくてください。



BOOK

西田哲学に挑んだ 仲間たちとの日々



仏教学科 専任講師

神達 知純

1969年東京都生まれ。専門は中国
仏教、主に天台大師の研究。天台宗
の僧侶。読売ジャイアンツのファン。
あだ名は「だちかん」。

「わたしを変えた」とは、この本に申し訳がない。というのも、私はこの本についてそこまで理解していないからだ。それでもここで採り上げたのは、私の大学生活の中で思い出深い一冊だからである。

大学に入学して、最初は何もかもが新鮮だった。でもそんな感覚はほどなくして薄れ、一ヶ月もすると授業をサボることも覚え、自堕落な日々を送るようになる。そんなときに文学部の同級生が読書会をしようと言い出した。同じクラスの数人が集い、読み始めたのは西田幾多郎の『思索と体験』だった。

西田幾多郎のことは、その名前は知っていた。本学の哲学科を卒業した父が、京都で大学生活を送る私に、「京都に行くなら西田哲学を学んでこい」と言っていたからだ。西田といえば『善の研究』が有名だが、この読書会では『思索と体験』をテキストとして選んだ。この本は『善の研究』以後、大正初期に書かれた西田の論文・エッセー集である。

予備知識もないままに読み始めると、何やら??? な感覚が私を襲った。大学受験で凝り固まり、さらにその後に弛緩し放しだった私の頭には刺激が強過ぎた。しかし、それより衝撃だったのは、同級生の仲間たちの多岐にわたる知識とすどい見解だった。それに比べて自分は何て幼いのだろう……私は敗北感を覚え、自分も彼らに負けないようにと必死に背伸びをした。

その後、私の担当が回ってきて「自然科学と歴史学」という論文をレポートすることになった。私はでき得る限りの手段を尽して読解を試みた。当時は今ほど簡便ではないから、とにかく力づくで調べ、自分なりにまとめた。私のレポートに仲間がどんな反応をしたかはもう覚えていないけど、自らの稚拙さを痛感したことは確かだった。

この会で西田幾多郎を読んだのは最初の数回だ

った。先達なく読み進めるのは、やはり限界があったのだろうか。その後は当時流行っていた中沢新一を読んだり、あるいは私が『般若心経』の解説をするという回もあった……はたして何を話したのだろうか、今となっては心配である。

それぞれが課外活動やらアルバイトやらで忙しくなり、会は自然消滅したが、このときの仲間数人とは今でも親友である。会のリーダーは二十年以上が経った今でも当時の資料を大切に保管しているという。彼にとってもそれほどまでに思い出深い会だったのだ。

大学一年生にとって西田哲学は余りに大きな壁だったが、それにチャレンジしたことは大切な経験となった。今の自分は現実のことばかりで、思いきって何かにチャレンジする気概に欠けているのかもしれない。あのとき背伸びしていた自分を思い出してこれからもがんばっていかなければと思う。

『思索と体験』

西田 幾多郎(岩波文庫)





人文学科 准教授

山内 洋

1960年神奈川県生まれ。専門は日本近現代文学、文芸批評。文学や文学教育の意味を、それらの究極の目標である「無名」性、「無私」性をキーワードにして追いかけている。

映画は言語ではなく 「映像」をして語らしめる

中学二年生の頃に、まだ創刊されてもない「ぴあ」を片手に握りしめて、東京中の名画座の暗闇に逃げ込むクセがついた。そのころ、たとえば池袋の文芸座では映画を3本200円で観られたものだ。小津や溝口の映画をはじめて観た銀座の並木座は、狭いせまい館内なのに、左手に大きな柱が視界を遮るようにどんと突っ立っていて、それがいつもジャマだった。渋谷の全線座ではなんと痴漢にあった。筒状に丸めた「ぴあ」で、左腿にしのばせてきた手をしこたまぶっ叩いてやったが、敵は少しもひるまないのしかたなくこっちが逃げ出した。あいつのせいで「OK牧場の決斗」はいまだに最後まで観ていない。

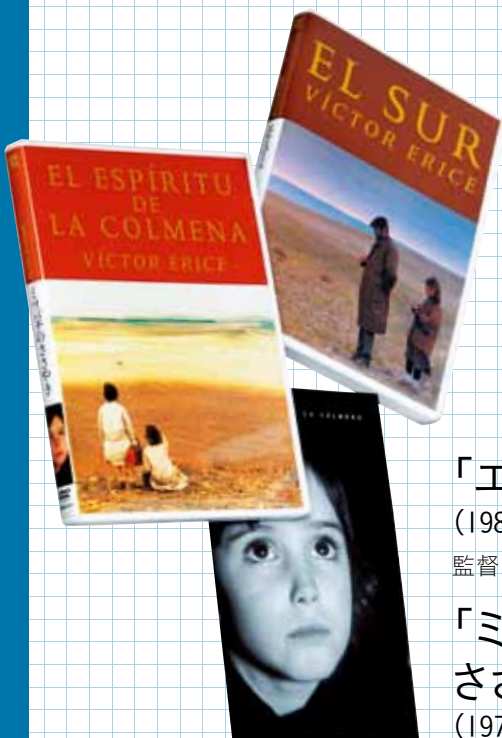
部活が休みの日には何本だって観られる体力と

知識欲とがあった。一日に「複数の物語」が必要な自分をいぶかしく思うことさえなかった。乱読、乱観の時間はいつだって好奇心旺盛で自意識過剰な少年少女たちをなにがしかは成長させてくれる必須栄養素なのだと思う。

それでも、いっばしにとが立ってから観たビクトル・エリセの2つの映画は、それまでのどの映画とも違っていた。「ミツバチのささやき」と「エル・スール」。なんだか始めて映画というものに「体験できた」ような気がした。その魅力のすべてをここで言うのはとても無理だけれど、ひとことで言えばビクトル・エリセとは、映画は、言語ではなく「映像」をして語らしめるべき表現媒体であることを、それから、映画には映画固有の「時間性」があることを、その詩情豊かなカメラワークと共にあらためて教えてくれる数少ない映画作家だったのである。

そこで語られている内容はどちらの映画でも、少女たちが大人になっていくための「通過儀礼」なのだと言えるだろう。あるいはその先にある「死」への予感。だがビクトル・エリセが映し出すものは、少しも説明に堕しない。たとえば「ミツバチのささやき」で言えば、焚き火を何度も飛び越える少女の姿をただ見よ。丘の上から眺められる遠い地平線を共に眺めよ。いずこへとも知れぬ謎の手紙を綴る母の指先。廃墟で出会った逃亡兵を見つめる少女の瞳。森の中を彷徨い、出会う精霊(フランケンシュタイン)のイメージ。そのどれもが静謐で、だが息を呑むほどに美しい。

宮崎駿がこの映画に触発されて「となりのトトロ」を創った、というのは知る人ぞ知るところだ。確かに「トトロ」の大事な設定、イメージはここに出揃う。宮崎アニメが大好きな人には是非「ミツバチのささやき」を観てほしい。大丈夫、その換骨奪胎ぶりにかえって敬意が増すことはあっても失望はしないはずだ。



「エル・スール」

(1982年公開)

監督：ビクトル・エリセ

「ミツバチの
ささやき」

(1973年公開)

仏正月

ほとけしょうがつ

書 赤平泰処(表現学部教授)
文 勝崎裕彦(仏教学部教授)



願い込め祈りも新たな仏の日

勝崎裕彦

新

春正月はめでたさの中での初行事が続いて、元日元旦から初晦日まで、なにかとうさうきとした日めくりを重ねる初暦である。そうした正月を祝いことほぐ思いは、一月一日の朔旦正月、あるいは松七日までの大正月・本正月、十四十五日(あるいは十六日)の小正月、十五日の女正月、さらには二十日正月、晦日正月と繰り返す祝い重ねてきたのである。

仏正月も、仏に祈り願い、寺参り、墓参りをする年始の正月行事である。昔から一月十六日をその日として、早い場所では四日とするところもあるが、また十四日、二十日とする地方もあったという。季語欄には、仏の正月・仏様の正月・仏の日・仏の年越・先祖正月・寺年始・真言始め・仏の口明・念仏の口明・鉦初・鉦おこし・鉦がかりなどと列記されている。口明とは物事の最初・はじめということであるが、念仏の口明には、「南無阿弥陀仏」と口に称えるその最初の一声に掛けての謂れである。鉦初・鉦おこしなども、百万遍などの念仏の伏鉦の取りかかりはじめ・叩きはじめのことである。な

お地方によっては、年末の真言納めから真言始めまでは鉦を鳴らさないで、これを鉦納め、鉦おこしということもある。

仏正月の習俗の面から見ると、二つに分類されるという。一つは、新年の墓参りや寺への年賀ということ、二つには、十六日の仏壇供養などを中心とした小正月明けの日を仏事始めとする設定であり、これは地獄の釜の蓋があく藪入りの日との関連もある。いずれにしてもお正月・お盆と並べられるように、仏正月にも盆祭と同じく先祖供養や祖霊への祈願の心がそなわっているわけである。

仏正月・仏の日にはまた精進日という意味合いがある。一年最初の仏道修行日と受けとめて、身を戒め、心を慎む精進努力の一日とするのである。

願い込め祈りも新たな仏の日

(勝崎裕彦)

仏正月をめぐる例句に適当なものが見あたらない。仕方なく、句といえるものではないが、十七字を並べた道句まがいの拙句を掲げさせていただいた次第である。

平成24年度 成道会

新たな試みにも 大きな拍手が

この成道会では、例年のお練り行列や
雅楽部演奏に加え本学設立四宗派の違いを
ファッションで知ってもらおうと

「大正Bo'zコレクション

— 四宗派の違いトクと見よ —」も開催された



大正 Bo'z コレクション

— 四宗派の違いトクと見よ —

天台宗



真言宗
豊山派



真言宗
智山派



浄土宗



本学の恒例行事である「成道会」が、昨年12月5日に挙行されました。
巢鴨・眞性寺をスタート地点に1時間余りをかけ学生が練り歩く「お練り行列」で幕を開け、その後、本学礼拝堂前で雅楽部による雅楽演奏、成道会法要、真言宗豊山派の太鼓の演奏「六太の響」、大般若転読会」といった式典がつながり執り行われ、法要中は真言宗豊山派と真言宗智山派による護摩も厳修されました。
お釈迦様のお悟りになられたことをお祝いするこの成道会は、仏教学部授業の一環として学生が主体となって企画・運営されるのが伝統であり特色ですが、本年は史上初となる企画画「大正Bo'zコレクション」

が開催され、好評を博しました。
この企画は仏教学部の各宗派の装束をまといて一同に披露しようというもの。「各宗派の特徴を皆様に感じて頂きたい」との学生の思いで開催されました。各宗派から先生・学生が様々な装束に身を包み会場に現れると、参加者からは多大な拍手が。その艶やかな姿のまま法要は執り行われ、折しも黄葉真っ盛りの銀杏並木をバックにした華麗な装束の共演が、多くの参加者を魅了しました。
乳粥、お茶、大根炊きといった温かいおもてなしの心に加え、見て楽しいという心遣いをも加える学生らしい発想。恒例行事に新たなイベントの誕生となりました。

三号館が グッドデザイン賞を 受賞

創立90周年記念事業の一環として
昨春竣工した「キャンパスの顔」が、
日本を代表する建築の仲間入り。
TSRを推し進める本学の
シンボルへの高評価が改革整備の弾みに！



タイルが層をなす外壁は、横に積まれた書物、
あるいは地層ならぬ「知層」を表現している

仏教・歴史・表現文化の三学科が置かれて
いる三号館が、日本デザイン振興会主催
の2012年度グッドデザイン賞を受賞。
高度経済成長に向かう1957年に通商
産業省主催の「グッドデザイン商品選定制
度（通称Gマーク制度）」としてスタート
したこの賞は、日本の産業界で最も権威と
伝統のある賞のひとつであり、本学が受賞
したのは今回が初めてです。
細部にまで本学の教育理念を反映し設計
されたこの三号館を、「モダンでありなが
ら仏教大学らしい品格を醸し出している。
（中略）連続的で開放的な閲覧室が実現さ
れており、学生はお互いに刺激し合いなが
ら学んでいくことであろう」と審査委員は



和のたたずまいを見せる三号館夜景

評価してくださいました。
デザインだけではなく、サステナブル（持
続可能）社会の実現の視点からもグッドデ
ザイン賞は選考されており、その意味でも
この受賞には意義があります。
TSR（大正大学の社会的責任）を通じ
地域・社会との連携を推し進めている本学。
この三号館も例外ではなく、一階には地域
連携を担う鴨台プロジェクトセンターがあ
り、今年度からオープンカレッジの開催会
場にも。春には庚申塚通りからのアプロ
ーチも開通し、5月竣工の「すがも鴨台観音
堂」と合わせ、三号館が地域コミュニケー
ションの場として機能することをも視野に
入れ、さらに整備を進めています。



（上）意外ならせん階段が和みの
空間に（下）1階ホールの階
段天井。その上が階段教室

投稿募集

「鴨台」では、みなさまからの
便りを募集しております。本誌
に関するご意見・ご感想・大正
大学の思い出など、いろいろと
お聞かせください。

〒170-8470 東京都豊島区
西巣鴨3-20-1
大正大学 企画調整課「鴨台」係
kouhou@mail.taishu.ac.jp



各学科専攻の「閲覧室」も、書架と
ガラスパーティションを組み合わせ
ることでモダンな空間に

